

第 2 回山陽小野田市基本構想審議会	
開催日時	平成 2 9 年 2 月 9 日（木）午後 2 時～ 4 時
開催場所	保健センター 2 階 集団指導室
出席委員	吉川委員、石川委員、田中由紀子委員、小松委員、長谷川委員、瀬口委員、平中委員、恒松委員、平野委員、民谷委員、岡野委員、中原委員、渡邊委員、加藤委員、平田委員、藤田委員、原雅典委員、田中剛男委員、伊場委員、江田委員、原孝造委員、山根委員、森田委員、松原秀樹委員、吉田委員、玉田委員、中村委員、江本委員、松原一雄委員、稲田委員、竹本委員、塩田委員、古谷委員
出席職員	総合政策部長、企画課長、企画課課長補佐、企画課主査、企画課主査兼企画係長、企画課行革推進係長、企画課主任
協議概要	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）総合計画策定に向けた取組について</p> <p>主な質疑応答</p> <p>【会長】 これまでのところで御意見、御質問はあるか。</p> <p>【委員】 第一次総合計画の達成率はどれくらいの達成率なのか。積み残しがどれだけあったのか。現実を直視し、第二次総合計画に反映する必要がある。</p> <p>特に良かった点と悪かった点など特質すべき点があれば教えてもらいたい。</p> <p>【会長】 達成率などについては後ほど説明があると思う。</p>

【委員】

国勢調査の数値と住民基本台帳との数値で誤差がある。第一次総合計画で平成29年の目標人口は6万4,000人が出ている。住民基本台帳だと6万4,000人を達成しているという話をされたと思うが、それからいうと住民基本台帳の数値と国勢調査の数値はだいたい2,000人くらい違う。それをまぜて評価するとよくない。人口統計に関するところで一緒にならないようにしてほしい。また、市の展望と実質的な計画ができるかというところで、あまり大きな数値を望まないほうがいいと思う。

【事務局】

第一次総合計画の目標人口について、平成17年までは最新の数値であった国勢調査の数値を掲載している。平成22年以降はコーホート要因法という手法を用い、平成22年、平成27年、平成29年の推計を出している。

何も少子化対策を講じなければこの数値になるということで、そうならないために平成29年には6万4,000人の人口を確保していくということでこの目標を掲げ取り組んでいるところである。資料4について平成27年現在の国勢調査の数値は6万2,671人となっている。先ほどの第一次総合計画の推計値と比べると500人以上高い数値となっている。資料4の数値は国が示しているものであり、5年ごとであるため平成29年の数値は準備できないが、平成32年の推計値では5万9,535人となっており、第一次総合計画の目標については達成が難しいというところである。住民基本台帳についての話があったが、第一次総合計画、第二次総合計画ともに国勢調査の数値を使用している。住民基本台帳は学生が親元に住民票を置いたまま大

学などに行かれることや長期入院などで市外の病院に行かれる、長期出張といったこともあり、正確な人数を把握できないこともあり、国勢調査の人口を使用している。

【委員】

財政計画に基づく市税歳入の見通しについて、平成 26 年度は比較的上がっているが、その後下降傾向となっている。平成 26 年度に上昇している要因は何かあるのか。

【事務局】

平成 27 年度の市税がよかった理由は、企業の収益が非常によく、法人税がかなり伸びたことによるもの。2008 年のリーマンショックを受け、それ以降本市も影響を受けていたが、ようやく平成 27 年度に持ち直してきた。ところが、平成 28 年度以降は法人税割の率が下がったことにより、また、景気も伸び率が減ってきており、市税の収入も少なくなってくるという推計を行っている。

【委員】

要介護者等の推計について、要介護率が大変上がっているが、財政が下がると要介護の経費が莫大にかかってくる。国の援助もこれから要介護者や高齢者に対して助成金もものすごく出てくる。そうなるとグラフ以上に市の財政的な負担も非常に大きなものになるのではと思う。その基本的な考え方や対応についてはどのようにされるのか。

【事務局】

高齢者福祉計画を 3 年ごとに更新している。第 7 期計画を策定中である。国の考え方も変わってきており、要支援、要介護の制度も変わってきている。なるべく在宅の方は在

宅で支援できるよう事業を実施しようとしている。これは総合支援事業というが、平成 29 年度から全国全ての市町村で進めようという制度の改正がきている。それに基づき、本市も平成 29 年度から総合支援事業を進めていく。さらに、今後 10 年後に地域包括支援事業を法的に行っていくようになっており、これも計画を立てて進めていく。問題は今後高齢者が増え、介護の人が増えると事業費がいるため、制度的に介護保険料が上がっていく。本市は 5,400 円だがこれが上がってくる。市についても 15～20% の税金を投入するのでどうしても上がってくる。今後についても国の動向も見極めながら計画をたてていく。

【委員】

今の状況だと固定資産税の低下も十分あると思う。いかに税収の下げ高を止めるか、あるいは税収を上げていくかという方法を考える必要がある。企業の景気も大きいと思うが、例えば地元では商店街の活性化を進めるなどの施策を展開しないといけない。極端な話ではあるがサービスが低下し、税収が減るといった悪循環が起こるといったことも十分予測し、計画を立てていかなければならない。そのあたりも踏まえ、第二次総合計画でも施策を展開してほしい。これは要望でもある。

(2) まちづくりの基本理念と将来都市像について

【会長】

前回のもものが示されており、今回どうするのかというところで御意見をいただけたらと思う。

【委員】

計画の中で説明があった取組状況について、庁内の幹事

会、策定本部でこの部分について話し合われているのではないか。前回会議では第一次総合計画では五つの基本目標だったが、今回は六つの基本目標にしたということを説明されていたが、今までの話し合った内容との整合が必要なのでは。下地があるのであれば見せていただきたい。

【会長】

大きなところから議論したほうがよい。それから中に入っていくほうがよいと考える。次回以降からそのあたりの話をしていきたい。まず、将来像が示されているが、これでいくのか、今回どうするのかを議論したい。

【委員】

資料の見方について聞きたい。山陽小野田市の人口動向等に関する資料があるが、一番最後に総合戦略における基本目標と施策展開とある。これはどのように見たらよいのか。基本目標や将来像はいろいろ出てくるが、どこでどう展開するかが理解できない。

【事務局】

資料4の最後にお示ししたものが昨年度策定した山陽小野田市の総合戦略である。国のまち・ひと・しごと創生法に基づき、国のほうでも人口減少対策に特化し、どういう施策を展開するかを示されており、その市町村計画である。前回の資料の基本方針でも触れさせていただいたが、人口の推移を見極め、人口減少に歯止めをかけるためどうするかということで人口減少対策、人口増加の施策に特化した取組をどう進めていくかを定めた計画である。総合戦略と総合計画で名前が似ており混同しやすいものであるが、この計画は今回審議いただく計画とは別に昨年度策定

した計画である。

【会長】

平成 27 年に山陽小野田市人口ビジョンが策定され決められたものである。今回はその人口目標があるので整合性を持たせた総合計画を策定するということである。

【委員】

総合戦略の件だが、これは、有効期限は今後 12 年と考えていいのか。

【事務局】

総合戦略は 5 年の計画である。

【委員】

平成 28 年度から 5 年ということである。今回の計画は 12 年間となり、一部含んでいる。5 年たてば総合戦略を見直すことになるが、総合計画に沿った見直しとなるのか。

【事務局】

総合戦略は総合計画の下位となるかもしれないが、人口対策に特化した計画であり、第二次の総合計画に沿った形で総合戦略も更新していく。総合計画のほうが上位と位置付けられる。

【委員】

その説明に心外な部分がある。去年の増田レポートなどがあり、日本全体が騒ぎ、総合戦略を立てたと思う。去年は人口ビジョンありきで総合戦略を策定した。今から統計データを見直す必要はなく、この資料の 13～15 ページを見

ればよい。既に人と時間をかけてこの結論に至っている。今回は13ページ以降でいうと(1)、(2)、(3)については人口減少を食い止める施策となっており、15ページは(4)はビジョニク的なものである。今回の計画でいえば(4)と将来像がマッチングすればよい。ただし、人口が減り、山陽小野田市がなくなるかもしれない。そちらのほうが危機感がある。そのため、私は総合戦略が今回の計画の下位にあるというのは納得いかない。総合戦略のほうが重要であると考えてる。

【事務局】

人口消滅可能性都市ということで増田レポートが出た。これは、20～39歳の女性が50%以上減少すると、その市町は成り立たなくなるという論文である。これにより人口対策が急に話題となったが、10年前、20年前より人口が減るということで子ども対策としてエンゼルプランや高齢者対策ではゴールドプランなど国をあげて政策をしていたが、成果が上がらなかったが、今回この増田レポートにより国も本腰を上げた。それに基づき、各市町村が総合戦略を策定した。本来の重点事項であるが、人口減少に対する対応策であり、それ以外にこの中に入っていないものもある。例えば安心安全のための防災対策などであるが、これは人口が減る、減らないにかかわらず市としてはやっていかなければならない重要な事業の一つである。しかし、総合戦略にはこれは入っていない。一方で総合計画ではきちんとうたわれている。そのような形であるため、総合計画の中に総合戦略が包含されることになる。上位下位という意見はあると思うがいろいろな施策を含めたものが総合計画であり、その中で人口減少対策として特に強くやっていく必要があるものが総合戦略である。そのような位置

づけであることを御理解いただきたい。

【会長】

前回の将来像が「人と出会い 支え合い 自然とふれあう 活力ある住み良さ創造都市」とある。心地のよい言葉が並んでおり、山陽小野田市を別のまちに置き換えても成り立つものではないかと思う。何か山陽小野田市の感じがしない。もっと心に響く言葉にしていく必要があるのではと思う。総花的・現実的になるとそんなにできることはない。山陽小野田市ならではの言葉・表現にするべきではと思う。

【委員】

人口増加を目指すなど、ないものねだりをしていると思う。今あるものを生かす。地域にあるものでは例えば高齢者などであり、そのあるものを最大限生かしていく。高齢者が活躍するまち、ないものねだりでなく、リユースすることが大切。子育てをするにも子どもを見てもらう環境がある。こういうところも高齢者の力を借りて地域で子どもを育てていく。そして新しいものは買わない。全部お古でまかなう。そのようなものがそろっている体制も子育て世代を招くことにもなる。また、高齢者が自由に参加できる、ただで遊具が使える公園など、誰もが集まれる、生活環境に左右されない、みんなで楽しむ、そのようなものが必要だと思う。それにより、自然に子育てと高齢者がマッチし、ほかにも負けず生きいきとなるのではないか。

【会長】

そのほか、将来の市をイメージするような意見はないか。

【委員】

市内の高校生でそのまま市で就職される人もいると思うが、その就業率は何パーセントくらいなのか。数字が今出ないのであればいいが、山口東京理科大学の卒業生が市内に就職し、定住してもらうという目標が10%と提示されている。高校生で卒業し、就職する方が本市に定住されている場合は将来的に本市の大きな資源となる。できるだけそのような数値をつかみながら山陽小野田市に定住していただくための施策を展開し、本市に定住してもらうことが大切である。そういった施策は何か持っているのか。

【会長】

具体的なところに入ると時間がなくなってしまう。次回以降の会議で検討していきたい。本日は山陽小野田市の目指す像についてお話しいただきたい。

【委員】

アンケートの集計結果をもらったが、その中の少数意見に中学生の意見で変わらないまちというのがあった。マイナスイメージもあるが、そのような言葉が将来像の中にあるといいと思った。

【委員】

予算は減っていき人口は減っていく、しかし山陽小野田市の面積は変わらない。批判も承知の上で選択と集中が必要。山陽小野田市隅々まで景観を維持し続けることは物理的に不可能ではないかと思う。その点も踏まえて計画を立てることが重要ではないか。

【委員】

昨日周南市にコンパクトシティ構想を聞きに行った。その中で意外だったのが、選択と集中とあったが、コンパクトシティ構想は中央に機能を全てもってきて効率よく行政が対応していく、そういうイメージがあった。しかし、講演では違っていた。コンパクトシティ構想は都会では選択と集中が既に起こっているが、地方でそれを行うともっと過疎地が増える。それをうまく実行しているところが富山県や青森県であり、あるものや資源を生かし、できるだけ頑張る。その代わり全てはできないのでボランティアやNPOを導入し、維持しながらネットワークにつないで特徴や各個性を生かし行っている。

山陽小野田市は合併し小野田市は集中し、山陽は分散している。現状は、厚狭の人口は増えている。一方でその周辺はかなり子どもが減っている。

維持できるものはできるだけ維持する。なくなってしまうものは考えるとして、部分的な選択と集中はいると思うが、できるだけ変わらないよう維持しながら、山陽小野田市らしさを考えていかなければならない。また、人と出会い支え合いとあるが、この将来像ありきで考えるのか、全て作成してからつくるのかを考える必要がある。

【委員】

変わらないというのは非常にいいと思う。成熟した社会や組織だといいが、大学の立場でいうと、来年薬学部ができるというのはまだ言うてはいけませんが、できると思っている。山口東京理科大学は現在工学部があるが、この薬学部ができたときにこのまちに何ができるかを考え続けている。学生たちがなぜこのまちを離れていくのか、あるいは都会から人が来ないかという、魅力がないからである。魅力とは心の豊かさであると思っている。その心の豊かさ

という漠然としたことを言っても誰も信用しない。ではその心の豊かさを支えるものは何かというと二つあり、富・お金と健康・健康寿命である。病気をしないことやこころの病にならず、ずっと生き続けられることである。その健康と富の豊かさを守り、拡大していくことについて、工学部は産業を起こす、富の豊かさを保つ、薬学部は健康を第一にする。工学部が富の豊かさを追求し、薬学部が健康寿命を追求する。その二つをもって心の豊かさを目指す。山陽小野田市の将来像もそのあたりとつながるとよい。

【委員】

漠然とだが、将来像について山陽小野田市に住みたいという人が増えることは一番重要。やはり山陽小野田市というイメージは工業のまちである。何となくイメージは灰色、工業のまち、石炭のまちなどがある。イメージ的なところから総合計画の将来像を考えてみてもよいのではないか。まちのイメージカラーも重要になるのではと思う。もう一つは山陽小野田市の特徴として山口東京理科大学、公立の大学があることであり、今からの市の大きな柱になる。会長が言われたように何かに特化するということは重要である。また、レノファ山口についても選手に市に住んでもらうといった働きかけをするなど、市のイメージを明るく、住みたい、行ってみたくなるといったイメージを持ってもらうことも大切である。

【委員】

新年会である人が子どもに小野田に家を建てるな、建てるなら他の場所に建てろと言ったことを聞いた。なぜかと聞くとごみの焼却場から臭いがするからであり、市に言ったが、何もしなかった。だからこのような所に住んではいけ

ない、他に行きなさいとなったそうである。物理的にごみを出さなければいいが、出る臭いを抑えることも施策として重要。就職についてもあれば出なくてすむし、環境も良くなれば残ってくれる。出なくていいように方策を考えていく必要がある。

【委員】

変わらないというのはすばらしい。変わらないようにしようと思っても段々変わってしまう。変わらないということは現状維持であり、発展しようと思わないと維持できない。変わらないためにも進歩、発展を目指さないと消滅する。具体的に人口を増やすためには学校と企業が重要であり、企業では企業誘致が一番である。学校では山口東京理科大学というすばらしいものがある。薬学部もできる。私たちの立場からすると看護師の養成も重要。どうあるべきかも議論していただけたらと思う。

【委員】

人口問題が話題になっているが、単純に人を増やせばいいというのと難民を受け入れればいいということもあるが国策で無理なものもある。フランスはどうやって少子化を克服したかという本を見た。少子化対策として政府自体が乗り気で行っており、いろいろな施策の中で、一つは若い夫婦の子育てはお父さんも責任や役割があるため、お父さんに子育てを教育するという施設・制度を作ったりしている。他にも分娩をするときに痛いから産むのが嫌という人も多かったらしいが、無痛分娩を保険適用で行うなどのお産を楽にするための施策を実施し、できるだけ赤ちゃんを産んでもらうなどもしている。また、子育て経験のあるお母さんなどを活用し、ベビーシッターなどの制度を作るこ

とも有効的だということで施策として実施していた。参考までにしていただけたらと思う。

【委員】

人口減少する中、税収も減っていく。行政が全てサービスをするのは難しくなる。行政のするサービスや事業は選択と集中がいる。一方で高齢者が増えている。今もかなりの人がボランティアを行っているが、今行っている行政サービスの一部についても元気な高齢者のボランティアを取り入れて行う。そうすると張り合いがでる。高齢者も元気な方が増える。そうすると要介護者等の比率も下がると思う。元気な方たちがさらに活躍できる環境をつくり健康寿命を延ばすことも考えてもらいたい。

【委員】

今、高齢者が多い中で、何年か前から、生きがいデイサービスやいきいき100歳体操なども取り組んでいる。元気になるために行っていることだが、今年でなくなってしまう。高齢者が元気で楽しんで行っているが国の施策でなくなるのであれば、市で高齢者を大切にしたい取組を続けてもらえたらと思う。

【委員】

前向きな意見が多いと思い聞いていた。第一次総合計画で住み良さ創造都市とあったが、何が住み良さなのか。利便性があることが住み良さなのか、何も変化のない、ゆったりとした空間のことか、住民サービスが行き届いた行政があることが住み良さなのか。いろいろと考えてみた。先ほどアンケート結果で変わらないまちというのがあり、とても響きがいいが、成長していくというのは何に関しても必

要である。変わらないまちとして私が思うところでは、山陽小野田市の根幹は変わらない、こういうまちをつくらないといけない、このような基本理念で進めないといけないというのがあるのではと思う。根幹はしっかりとしたものを持ち、動かないようなまちにしないといけない。住み良さという面でいうと子どもが住み良い、生産性のある世代、高齢者の方も住み良いということを考え、現状ではなく少しずつ成長してみたいなと思う。私の考えであるが旧山陽町、旧小野田市ともに通りすぎてしまうまちである。渋滞の話も通りすがりの車が渋滞している。山陽小野田市自体のことを考えると人口を増やすことや子どもの出生率を高めることも行っているとは思いますが、根拠のある目標値を持って進めていく必要がある。山陽小野田市の本当の理念として変わらないまちというのをつくっていったらと思う。

【委員】

高校で大学への受験指導をしているが生徒の能力や適性に合わせいろいろな学校を選べる時代になっている。日本が特徴的であり、ドイツでは自治区や州などで大学なども決められているが、日本では誰でもどこでも自由に受験できる制度になっている。それを県単位の中で完結する、あるいは山陽小野田で完結しようとする閉鎖的になる。そのため、帰ってくる気持ちになるまちづくりが必要になる。都会に行っているいろいろな養分を吸い、それを山口県に還元する。そういった帰ってくる、帰ってきがいのあるまちづくりが必要である。

【委員】

基本理念というと会社の経営理念のようなものである。行

き詰まったときにその理念に立ち返って考えるといった面もあるため、初めに作ったほうがよいと思う。また、今後進めるに当たっては理念の案も2案があるとそれを検討することができるので決めやすいのではないかと思う。中身は山陽小野田魂というか出る人が多いということは戻ってこないということでもある。山陽小野田市民が心の底から戻ってきてほしいと思っているのかと思う。そう思っているのであればハードもソフトも真剣に考えるし、その思いがあれば帰ってくると思う。自分の子どもが将来山陽小野田市に帰ってくるかという点はまだ自信がない。そこをどうにかしないといけないと本気で思う。そのキャッチフレーズ的なものも市民はもちろんだが市外の人にも伝えられるような基本理念があれば進みやすいと思う。

【会長】

今回いただいた意見も踏まえ、今後検討していけたらと思う。基本理念は大切であり、事務局のほうで最終的にまとめていきながら作成していただけたらと思う。

(3) 第一次総合計画に係る施策課題カルテについて
(説明のみ。)

3 その他

4 閉会